

# 安全データシート

ReNEWable Gas Purifier – New Cartridge, Part Number G3440–60003

## 1. 化学品及び会社情報

この製品は、商品と見なされます。この安全性データシートは、この商品に含まれるカプセル化された物質または混合物に基づいて記述されています。

**化学品の名称** : ReNEWable Gas Purifier – New Cartridge, Part Number G3440–60003  
**部品番号** : G3440–60003  
**供給者/ 製造者** : 会社名 アジレント・テクノロジー株式会社  
 住所 〒192–8510 東京都八王子市高倉町9–1  
 電話番号 +81–42–660–3111

**緊急連絡電話番号(受付時間)** : CHEMTREC®: +(81)–345209637

**化学製品の推奨される用途** : 分析化学。  
 密閉型カートリッジ  
 0.029 kg

**注記事項 \*** : 技術データシート/説明書を参照すること。

## 2. 危険有害性の要約

この商品は、適切な条件下で、使用上の指示に従って使用すれば、健康上有害にはなりません。物質または混合物は、商品の中ではカプセル化されています。製品の使用上の指示に従わずに商品を使用したり処理したりした結果放出された場合にのみ、健康上および安全上有害になる可能性があります。

### GHS 分類

H251 自己発熱性化学品 – 区分1  
 H315 皮膚刺激性 – 区分2  
 H318 眼に対する重篤な損傷 – 区分1  
 H317 皮膚感作性 – 区分1  
 H341 生殖細胞変異原性 – 区分2  
 H350 発がん性 – 区分1A  
 H370 特定標的臓器毒性(単回ばく露) – 区分1  
 H335 特定標的臓器毒性(単回ばく露)(気道刺激性) – 区分3  
 H372 特定標的臓器毒性(反復ばく露) – 区分1  
 H401 水生環境有害性(急性) – 区分2  
 H411 水生環境有害性(長期間) – 区分2  
 水生環境に対する未知の危険有害性成分から成る混合物のパーセンテージ: 3%

### GHS ラベル要素

#### 絵表示又はシンボル



**注意喚起語** : 危険

**危険有害性情報** : H251 – 自己発熱: 火災のおそれ。  
 H315 – 皮膚刺激。  
 H317 – アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。  
 H318 – 重篤な眼の損傷  
 H335 – 呼吸器への刺激のおそれ。  
 H341 – 遺伝性疾患のおそれの疑い。  
 H350 – 発がんのおそれ。  
 H370 – 臓器の障害。(呼吸器系、全身毒性)  
 H372 – 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害。(免疫系、腎臓、肺、神経系、呼吸器系)  
 H411 – 長期継続的影響によって水生生物に毒性。

#### 注意書き

##### 安全対策

P201 – 使用前に取扱説明書を入手すること。  
 P280 – 保護手袋を着用すること。保護手袋/衣類を着用すること。保護眼鏡または保護面を着用すること。  
 P273 – 環境への放出を避けること。

##### 応急措置

P391 – 漏出物を回収すること。

## 2. 危険有害性の要約

- 保管** : P413 – 15kg 以上の大量品は、100°C 以下の温度で保管すること。
- 廃棄** : P501 – 内容物および容器を現地、地域、国および国際的規則に従って廃棄すること。
- 補足的なラベル要素** : P201 – Do not taste or swallow. 取扱い後はよく洗うこと。

**他の有害性** : 消化管に炎症を引き起こす。

## 3. 組成及び成分情報

この商品は、適切な条件下で、使用上の指示に従って使用すれば、健康上有害にはなりません。物質または混合物は、商品の中ではカプセル化されています。製品の使用上の指示に従わずに商品を使用したり処理したりした結果放出された場合にのみ、健康上および安全上有害になる可能性があります。

**化学物質・混合物の区分** : 混合物（商品内でカプセル化）

**CAS 番号/他の特定名**

化学名又は一般名	%	CAS 番号	官報公示整理番号	
			化審法	安衛法
プロライト	≥25 – ≤50	1318-02-1	データなし	データなし
酸化銅(II)、活性化	≥10 – <25	1317-38-0	1-297	データなし
二酸化マンガン(IV)、活性化	10	1313-13-9	1-475	データなし
二酸化ケイ素	≥10 – ≤25	7631-86-9	1-548	(1)-548
酸化アルミニウム	<10	1344-28-1	1-23	(1)-23
酸化ナトリウム	<5.0	1313-59-3	1-495	1-495
酸化カルシウム	≤5.0	1305-78-8	1-189	1-189
結晶質-石英	≤3.0	14808-60-7	1-548	(1)-548

## 4. 応急措置

- 吸入した場合** : 直ちに医師の診断を受ける。医師に連絡する。空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。煙霧が残存している疑いがある場合、救助隊は適切なマスクあるいは自給式呼吸器を着用しなければならない。呼吸していない場合、呼吸が不規則な場合、あるいは呼吸停止が起きた場合には、適切な訓練を受けた者が人工呼吸あるいは酸素吸入を行う。救助者が口移し人工呼吸で蘇生術を行うと、救助者に危険がおよぶことがある。意識がない場合、昏睡位（うつ伏せで顔をやや横向き）にして直ちに医師の診断を受けさせる。気道を開いた状態に維持する。襟、ネクタイ、ベルト、ウエストバンド等の衣類の締め付けをゆるめる。
- 皮膚に付着した場合** : 直ちに医師の診断を受ける。医師に連絡する。多量の水と石鹸で洗うこと。汚染された衣服および靴を脱がせる。汚染された衣服を取り除く前に汚染された衣服を水で十分に洗うか、または手袋を着用する。少なくとも10分間洗い流し続ける。化学品による火傷はすみやかに医師による手当てを受けなければならない。何らかの不快感や症状があるときはそれ以上の暴露を避ける。衣類は、再着用の前に洗濯する。靴は再使用前に十分に洗浄する。
- 眼に入った場合** : 直ちに医師の診断を受ける。医師に連絡する。すぐに多量の水で、時々上下のまぶたを持ち上げながら眼をすすぐ。コンタクトレンズの有無を確認し、着用している場合にははずす。少なくとも10分間洗い流し続ける。化学品による火傷はすみやかに医師による手当てを受けなければならない。
- 飲み込んだ場合** : 直ちに医師の診断を受ける。医師に連絡する。水で口を洗浄する。入歯をしている場合ははずす。空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。物質を飲み込んだ場合、被災者の意識があれば少量の水を飲ませる。嘔吐すると危険なことがあるので、もし被災者の気分が悪くなったらそれ以上水を飲ませてはならない。医師の指示がない限り、吐かせてはならない。もし嘔吐が起きた場合は嘔吐物が肺に入らないように頭を低い位置に保つ。化学品による火傷はすみやかに医師による手当てを受けなければならない。意識がない場合、決して口からものを与えてはならない。意識がない場合、昏睡位（うつ伏せで顔をやや横向き）にして直ちに医師の診断を受けさせる。気道を開いた状態に維持する。襟、ネクタイ、ベルト、ウエストバンド等の衣類の締め付けをゆるめる。

### 最も重要な徴候及び症状

#### 予想される急性健康影響

- 吸入した場合** : 吸入すると、単回暴露で臓器に障害を引き起こす。呼吸器への刺激のおそれ。
- 皮膚に付着した場合** : 皮膚に接触すると、単回暴露で臓器に障害を引き起こす。皮膚刺激。アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。
- 眼に入った場合** : 重篤な眼の損傷
- 飲み込んだ場合** : 消化管に対して腐食性。やけどを引き起こす。飲み込むと、単回暴露で臓器に障害を引き起こす。

## 4. 応急措置

### 過剰にばく露した場合の徴候症状

- 吸入した場合** : 有害症状には以下の症状が含まれる:  
気道の刺激  
咳
- 皮膚に付着した場合** : 有害症状には以下の症状が含まれる:  
痛み及び刺激  
充血  
水ぶくれになることがある
- 眼に入った場合** : 有害症状には以下の症状が含まれる:  
痛み  
流涙  
充血
- 飲み込んだ場合** : 有害症状には以下の症状が含まれる:  
胃痛

**応急処置をする者の保護** : 人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。煙霧が残存している疑いがある場合、救助隊は適切なマスクあるいは自給式呼吸器を着用しなければならない。救助者が口移し人工呼吸で蘇生術を行うと、救助者に危険がおよぶことがある。汚染された衣服を取り除く前に汚染された衣服を水で十分に洗うか、または手袋を着用する。

**医師に対する特別な注意事項** : 症状に対応した対処療法を行うこと。大量に摂取あるいは吸引した場合は、直ちに毒物治療の専門医に連絡する。

## 5. 火災時の措置

**消火剤** : 火災に応じた消火剤を使用する。

**使ってはならない消火剤** : 認知済みのものは無し。

**特有の危険有害性** : 既に発熱性物質。引火のおそれあり。本製品は水生生物に対して有毒であり、長期にわたり持続する影響を有する。本物質によって汚染された消火用水は封じ込める必要があり、水路、下水、または排水管に放出してはならない。

**有害な熱分解生成物** : 分解生成物には以下の物質が含まれることがある:  
二酸化炭素  
一酸化炭素  
金属酸化物

**特有の消火方法** : 火災が発生したら、すみやかに火災現場から人員を退避させ現場を隔離する。人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。

**消火を行う者の保護** : 消火を行う者は適切な保護器具と、陽圧モードで動作するフルフェイス部分を備えた自給式の呼吸器具を装着しなければならない。

## 6. 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置

**非緊急時対応要員について** : 人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。周辺地域の人々を避難させる。関係者以外ならびに保護用具を着用していない作業員の入室を禁じる。漏出した物質に触れたり、その上を歩いたりしてはならない。十分な換気を行う。換気が不十分な場合は適切な呼吸用保護具を着用する。適切な個人保護装置を着用する。

**緊急時対応要員について** : 流出分の取り扱いに専用衣類が必要な場合には、適切および不適切な物質に関するセクション8に記載の情報に注意しなければならない。「緊急時要員以外の人員用」の情報も参照。

**環境に対する注意事項** : 漏出した物質や流去水の拡散、および土壌、水路、排水溝下水道との接触を回避する。製品が環境汚染(排水、水路、土壌または大気)を起したときは、関係する行政当局に報告する。水質汚染物質である。大量に放出されると環境に対して有害である可能性がある。漏出物を回収すること。

**封じ込め及び浄化の方法及び機材** : 漏出区域から容器を移動する。粉塵の発生を避けること。乾燥状態で掃かないこと。粉塵をHEPAフィルター付きの器具で吸い取り、ラベルが貼られた密栓付きの廃棄物用容器に入れること。漏洩物は指定された、ラベルの貼られた廃棄物用容器に入れること。許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処分する。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 安全に取扱うための注意事項

#### 安全取扱注意事項

適切な個人保護具を使用すること(セクション8を参照)。皮膚感作障害の病歴を持つ人を、本製剤が使用されるいかなる工程にも就業させてはならない。暴露を避けること—使用前に取扱説明書を入手すること。全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。眼、皮膚および衣類に触れないようにする。摂取してはならない。環境への放出を避けること。換気が十分な場所でのみ使用する。換気が不十分な場合は適切な呼吸用保護具を着用する。使用しないときは元の容器又は適合素材で作られた認可済みの代替容器に入れ、密閉して保存する。容器が空でも製品の残留物が残存して有害危険性がある。容器を再利用してはならない。

#### 衛生対策

本物質の取扱い、保管、作業を行う場所での飲食および喫煙は厳禁。作業者は飲食、喫煙の前に手を洗うこと。飲食区域に入る前に汚染した衣類と保護具を脱ぐこと。同様にセクション8の衛生措置に関する追加情報も参照。

### 保管

#### 安全な保管条件

現地の法規制に従って保管する。隔離され認定された場所に貯蔵する。元の容器に入れ、換気の良い乾燥した冷所で直射日光を避け、混合禁止物質(セクション10を参照)および飲食物から離して保管する。15kg以上の大量品は、100°C以下の温度で保管すること。施錠して保管すること。あらゆる発火源を除去する。他の物質から離して保管すること。積荷/パレット間に隙間をあけること。使用直前まで、容器は固く閉め封印して保管する。いったん開けた容器は入念に再密閉し、漏出を防ぐため直立させて保管する。ラベルのない容器に保管してはならない。環境汚染を避けるために適切な容器を使用する。非相溶性材料については取扱いまたは使用の前にセクション10を参照のこと。

## 8. ばく露防止及び保護措置

この商品に含まれる有害な成分はカプセル化されているため、吸い込む、飲み込む、皮膚への付着、目に入るなどによる暴露のリスクは、最小限に抑えられています。

### 設備対策

換気が十分な場所でのみ使用する。この製品に関連する一次的あるいは二次的リスクを管理するために、技術的な管理対策が必要になる可能性がある。工程の隔離、局所排気通風装置あるいはその他の技術的管理設備を使用し、作業者が暴露される空気中の汚染物質濃度をあらゆる推奨あるいは法定暴露限界以下に保つ。防爆型換気装置を使用する。

### 暴露限界

化学名又は一般名	暴露限界値
酸化マンガン(IV)	日本産業衛生学会(日本, 5/2018)。 OEL-M: 0.2 mg/m <sup>3</sup> , (Mnとして) 8時間。
酸化アルミニウム	日本産業衛生学会(日本, 5/2018)。 OEL-M: 0.5 mg/m <sup>3</sup> 8時間。形状: 吸入性粉塵
結晶質シリカ(石英)	OEL-M: 2 mg/m <sup>3</sup> 8時間。形状: 総粉塵 日本産業衛生学会(日本, 5/2018)。 OEL-C: 0.03 mg/m <sup>3</sup> 形状: 吸入性粉塵

### 保護具

#### 呼吸用保護具

危険性と暴露の可能性に基づき、適切な基準または認証を満たすマスクを選択すること。マスクは、呼吸保護プログラムに従って使用し、適切な付け心地、トレーニング、および使用上のその他の側面を確実にすること。

#### 手の保護具

リスク評価によって必要とされる場合は、化学製品の取り扱いの際、承認された基準に合格した耐化学品性で不浸透性の手袋を常に着用する。手袋製造業者により特定されたパラメータを考慮して、手袋の使用中に手袋がまだ保護性を維持しているかを確認すること。あらゆる手袋の材料は製造業者が異なれば透過時間も異なる可能性があることに注意する必要がある。いくつかの物質から成る混合物の場合には、手袋の保護時間を正確に推定することはできない。

#### 眼の保護具

リスク評価によって必要とされる場合は、液体の飛まつ、ミスト、ガスあるいは塵埃への暴露をさけるため、承認された基準に合格した安全眼鏡を着用する。接触の可能性がある場合、評価によってより高次の保護が指摘されている場合を除いて次の保護具を着用しなければならない: 化学物質用飛沫防止ゴーグルおよび/またはフェイスシールド 吸入危険有害性が存在する場合には、代わりにフルフェイス呼吸保護具が必要な場合もある。

#### 皮膚及び身体の保護具

作業者の身体保護衣は、行う作業の内容および関連するリスクに基づいて選択しなければならない。さらにこの製品を取り扱う前に、行う作業とそれに付随するリスクに基づき適切な履物および何らかの追加的な皮膚保護具を選択し、専門家の認可を受けなければならない。

## 9. 物理的及び化学的性質

### 外観

物理的状态	: 固体
色	: データなし
臭い	: データなし
pH	: データなし
融点・凝固点	: データなし
沸点、初留点と沸騰範囲	: データなし
引火点	: データなし
燃焼又は爆発範囲の上限・下限	: データなし

蒸気圧	: データなし
比重(相対密度)	: データなし
溶解度	: データなし
n-オクタノール/水分配係数	: データなし

自然発火温度	: データなし
分解温度	: データなし

### その他のデータ

追加情報なし

## 10. 安定性及び反応性

**反応性** : この製品は、エネルギー供給が無い空気との反応により、自己発熱し、大量の場合や長期間の反応後には発火する傾向がある。体積450リットルの自然発火温度は $\leq 50^{\circ}\text{C}$ である。

**化学的安定性** : 製品は安定である。

**危険有害反応可能性** : 特定の貯蔵または使用条件において危険有害性反応または不安定性を生じることがある。  
条件には次のものを含む場合がある:  
バルク保管中における空気との長時間の接触  
反応には次のものを含む場合がある:  
火災を引き起こすリスク  
自然発火性

**避けるべき条件** : 特にデータは無い。

**混触危険物質** : 酸化剤とは反応することがあるか、危険配合物質。  
次の物質と反応性あるいは危険配合性: 湿気。

**危険有害な分解生成物** : 通常の保管及び使用条件下では、危険な分解生成物は生成されない。

## 11. 有害性情報

### 急性毒性

製品 / 成分の名称	結果	種類	投与量	暴露時間
☑オライト	LC50 吸入した場合 微塵および噴霧 LD50 経口	ラット - オス、メス ラット - オス、メス	>18.3 mg/l >5110 mg/kg	4 時間 -
酸化銅(II)	LD50 経口	ラット	470 mg/kg	-
二酸化マンガン(IV)	LD50 経口	ラット	3478 mg/kg	-
シリカ 結晶質、非晶質を包含した二酸化ケイ素	LC50 吸入した場合 微塵および噴霧 LD50 経口	ラット - オス、メス ラット	58.8 mg/l >10000 mg/kg	4 時間 -
酸化アルミニウム	LC50 吸入した場合 微塵および噴霧 LD50 経口	ラット - オス、メス ラット - メス	>6040 mg/m <sup>3</sup> 2000 mg/kg	4 時間 -

## 11. 有害性情報

### 急性毒性の推定

製品 / 成分の名称	経口 (mg/kg)	経皮 (mg/kg)	吸入 (ガス) (ppm)	吸入 (蒸気) (mg/l)	吸入 (ダストおよびミスト) (mg/l)
<input checked="" type="checkbox"/> 酸化マンガン(IV) シリカ 結晶質、非晶質を包含した二酸化ケイ素	3478 N/A	N/A N/A	N/A N/A	N/A N/A	N/A 58.8

### 刺激性/腐食性

データなし

### 呼吸器感作/皮膚感作

データなし

### 生殖細胞変異原性 (変異原性)

データなし

### 発がん性

データなし

### 生殖毒性

データなし

### 特定標的臓器毒性、単回ばく露

名称	カテゴリ	暴露経路	標的臓器
<input checked="" type="checkbox"/> 酸化銅(II)	区分1	-	全身毒性
二酸化マンガン(IV)	区分3	-	気道刺激性
シリカ 結晶質、非晶質を包含した二酸化ケイ素	区分1	-	呼吸器系
酸化アルミニウム	区分3	-	気道刺激性
酸化カルシウム	区分3	-	気道刺激性
	区分1	-	呼吸器系

### 特定標的臓器毒性、反復ばく露

名称	カテゴリ	暴露経路	標的臓器
<input checked="" type="checkbox"/> ロライト	区分1	-	呼吸器系
二酸化マンガン(IV)	区分1	-	神経系、呼吸器系
シリカ 結晶質、非晶質を包含した二酸化ケイ素	区分1	-	免疫系、腎臓、呼吸器系
酸化アルミニウム	区分1	吸入した場合	肺
酸化カルシウム	区分1	-	呼吸器系
結晶質シリカ(石英)	区分1	-	免疫系、腎臓、呼吸器系

### 吸引性呼吸器有害性

データなし

## 12. 環境影響情報

### 生態毒性

製品 / 成分の名称	結果	種類	暴露時間
<input checked="" type="checkbox"/> ロライト 酸化銅(II)、活性化	慢性 NOEC 200000 µg/l 真水 急性 LC50 2.6 mg/l 真水	ミジンコ類 - Daphnia magna ミジンコ類 - Daphnia magna - 新生児	21 日 48 時間
二酸化マンガン(IV)、活性化	急性 LC50 >56000 ppm 真水 急性 EC50 >100 mg/l 真水 急性 LC50 >100 mg/l 真水 急性 LC50 >100 mg/l 真水 急性 NOEC 100 mg/l 真水	魚類 - Gambusia affinis - 成体 藻類 ミジンコ類 魚類 ミジンコ類	96 時間 72 時間 48 時間 96 時間 48 時間
二酸化ケイ素 酸化アルミニウム	急性 NOEC >100 mg/l 真水 急性 EC50 >10000 mg/l 真水 急性 EC50 114.357 mg/l 真水	魚類 藻類 ミジンコ類 - Daphnia magna - 新生児	96 時間 72 時間 48 時間
酸化カルシウム	急性 LC50 ≥1070 mg/l 真水	魚類	96 時間

## 12. 環境影響情報

慢性 NOEC 100 mg/l 真水	魚類 - Oreochromis niloticus - 幼若体(ひな鳥、孵化したての幼魚、離乳子畜)	46 日
---------------------	---	------

### 残留性・分解性

製品 / 成分の名称	水中における半減期	光分解	生分解性
酸化ケイ素	-	-	容易ではない

### 生体蓄積性

製品 / 成分の名称	LogP <sub>ow</sub>	BCF	可能性
ロライト 酸化カルシウム	- -	0.59 から 0.95 2.34	低 低

### 土壌中の移動性

: データなし

### オゾン層への有害性

: 該当しない

### 他の有害影響

: 重大な作用や危険有害性は知られていない。




## 13. 廃棄上の注意

### 廃棄方法

: 廃棄物の発生は避けるか、あるいは可能な限り少なくする必要があります。この製品、製品の溶液およびあらゆる副生成物の処分は、常に環境保護および廃棄物処理に関する法律の定める要求事項、および現地法の定める要求事項に従わなければならない。余剰またはリサイクルできない製品は許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処理する。管轄当局の要件に完全に準拠しない限り、廃棄物を無処理で下水道に流してはならない。不要な包装材料は再利用しなければならない。焼却または埋め立ては、再利用が不可能な場合にのみ検討すべきである。この材料およびその容器は安全な方法で廃棄しなければならない。清掃または洗浄されていない空容器を取り扱う際には注意しなければならない。空の容器や中袋に製品が残留している可能性がある。漏出した物質や流去水の拡散、および土壌、水路、排水溝下水道との接触を回避する。

## 14. 輸送上の注意

この安全性データシートは、この商品に含まれるカプセル化された物質または混合物に基づいて記述されています。この商品に含まれる有害な成分はカプセル化されているため、吸い込む、飲み込む、皮膚への付着、目に入るなどによる暴露のリスクは、最小限に抑えられています。

	UN	IMDG	IATA
国連番号	UN3190	UN3190	UN3190
品名	SELF-HEATING SOLID, INORGANIC, N.O.S. (二酸化マンガ(IV)、活性化、酸化銅(II)、活性化)	SELF-HEATING SOLID, INORGANIC, N.O.S. (二酸化マンガ(IV)、活性化、酸化銅(II)、活性化)	Self-heating solid, inorganic, n.o.s. (二酸化マンガ(IV)、活性化、酸化銅(II)、活性化)
国連分類 クラス	4.2 	4.2 	4.2 
容器等級	II	II	II
環境有害性	該当せず。	該当せず。	該当せず。

### 追加情報

備考: 微量危険物

UN : 特別条項 274

IMDG : 緊急時スケジュール F-A, S-J  
特別条項 274

## 14. 輸送上の注意

**IATA** : 他の輸送規制によって要求される場合には、環境有害性マークが付くことがある。  
**数量制限** 旅客および貨物輸送機: 15 kg。梱包に関する指示: 467。貨物専用輸送機: 50 kg。梱包に関する指示: 470。数量制限 – 旅客機: 禁じられている。梱包に関する指示: Forbidden。  
**特別条項** A3, A803

**使用者のための特別な予防措置** : **使用者の施設内での輸送**: 直立型の安定した容器に入れて輸送する。本製品の輸送者が事故や漏出の際の対処法を理解していることを確認する。

**IMO機器によるばら積み運搬** : データなし

## 15. 適用法令

### 消防法

カテゴリ	物質名/種類	危険性区分	注意喚起語	指定数量
第一類	以下を含む物質: 過マンガン酸塩類	III	データなし	1000 kg
第二類	以下を含む物質: 引火性固体	III	Caution on contact with sources of ignition	1000 kg

消防法 – 消防活動阻害物質 : 該当

### 安衛法

#### 名称等を表示すべき危険物及び有害物

化学名又は一般名	状況	政令番号
銅及びその化合物	該当	379
マンガン及びその無機化合物	該当	550
結晶質シリカ	該当	165-2
酸化アルミニウム	該当	189
酸化カルシウム	該当	190
結晶質シリカ	該当	165-2

#### 名称等を通知すべき危険物及び有害物

化学名又は一般名	状況	政令番号
銅及びその化合物	該当	379
マンガン及びその無機化合物	該当	550
結晶質シリカ	該当	165-2
酸化アルミニウム	該当	189
酸化カルシウム	該当	190
結晶質シリカ	該当	165-2

労働安全衛生法施行令 別表 : 該当しない。

第一 危険物

### 化学物質審査規制法

記載された成分なし。

### 毒物及び劇物取締法

記載された成分なし。

### 化学物質排出把握管理促進法

化学名又は一般名	%	状況	政令番号
マンガン及びその化合物	10	第一種	412

日本産業衛生学会 発がん性物質 : 1類

海洋汚染防止法 : 海洋汚染物質: P



## 15. 適用法令

道路法 : 該当

## 16. その他の情報

履歴	
発行日/改訂版の日付	: 2020/03/03
前作成日	: 2018/03/08
バージョン	: 3
略語の解説	: ATE = 急性毒性推定値 BCF = 生物濃縮係数 GHS = 化学品の分類および表示に関する世界調和システム IATA = 国際航空輸送協会 IBC = 中型運搬容器 IMDG = 国際海上危険物 LogPow = オクタノール/水の分配係数の対数 MARPOL = 海洋汚染防止条約、1973年の船舶による汚染の防止のための国際条約に関する1978年の議定書。("Marpol" = 海洋汚染) N/A = データなし UN = 国際連合

### 分類を行うために使用する手順

分類	由来
<input checked="" type="checkbox"/> 自己発熱性化学品 - 区分1 皮膚刺激性 - 区分2 眼に対する重篤な損傷 - 区分1 皮膚感作性 - 区分1 生殖細胞変異原性 - 区分2 発がん性 - 区分1A 特定標的臓器毒性(単回ばく露) - 区分1 特定標的臓器毒性(単回ばく露)(気道刺激性) - 区分3 特定標的臓器毒性(反復ばく露) - 区分1 水生環境有害性(急性) - 区分2 水生環境有害性(長期間) - 区分2	専門家の判断 算出方法 算出方法 算出方法 算出方法 算出方法 算出方法 算出方法 算出方法 算出方法

参照 : データなし

 前バージョンから変更された情報を指摘する。

### 注意事項

使用者への注意: このデータシートは作成時における最新情報に基づいて作成されています。しかしながら記載されている内容は情報提供であり、その正確性あるいは完全性に関していかなる保証をなすものではありません。

注記事項 \* : 技術データシート/説明書を参照すること。